

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



事業所名: グループホーム青沼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間愛を基に最良の介護を提供することを基本として、ホーム独自の理念を作っている。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で再認識し、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして理念の一部を見直して取り組みたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関掲示板や介護ステーションに掲示し、なおかつ会議等においても時には話して意識づけ共有している。	○	日々のサービス提供場面においても理念が反映されるよう充実に努めたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営理念をホームの玄関に掲示し、契約書及び重要事項説明書にも明示して理解を得ている。	○	運営推進会議地域代表及び認知症普及啓発講座の席で民生委員や自治会役員に対して施設の概要を説明して啓発に取り組んでいる。今後定期的に発行する「ホーム便り」にも掲載して地域に配布する等して理解を深めたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と一緒に日常的に散歩や買い物に出かけ、又職員は出勤・退勤時に近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしてお付き合いしている。		近隣の推進会議委員には行事(納涼祭やXマス会等)への参加とお手伝いをさせていただきながら、ゲームをしたりして和気藹々に交流している。現在、近所の方に気軽に立ち寄ってくださるよう呼びかけている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に加入し、神社のお祭りや運動会に積極的に参加している。	○	近所の公園に出かけ保育園児や小学生、散策の人たちとの交流の機会は多々ある。老人クラブや近隣の保育園児の来訪を呼びかけているが実現には至っていない。引き続き実現に向けて取り組んでいく。

事業所名: グループホーム青沼

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センター主催による「認知症啓発普及講座」の研修会において実践内容を説明し、参加者から質疑応答を受ける等して理解を深めている。又人材の育成として研修生や実習生を積極的に受け入れ貢献している。	○	地域自治会や老人会等の集会に参加する機会をつくり、地域高齢者の暮らしに役立つように推し進めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所開設以来4回の自己評価及び外部評価の実績を踏まえ運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価は全職員で行ないサービスの質の向上に努めている。	○	GH協会研修資料の家族アンケートは大変参考になり全職員で共有しサービスの質の確保に生かしている。又外部評価の結果については会議で報告する等して今後も質の向上に取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の都度、推進会議で提案された懸案事項について、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。又、これまでの評価結果を踏まえ、その取り組み内容について報告し、意見をもらうようにしている。	○	運営推進会議委員の計らいにより地域の人達がボランティアで訪れ歌や太鼓を披露していただき交流の輪が広がっているが更に推し進めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の派遣による介護相談員が定期的(毎月)に訪問していただき、個々に利用者の相談に乗ったり又皆さんとお話したりして職員や利用者との交流も図っている。		甲府市介護サービス事業者連絡協議会に加入しており、会が主催する研修会や事業にも参加し担当者との対話等する機会をつくっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方が現在(以前もいた)おります。然し、管理者・職員とも地域福祉権利擁護事業も含めて認識が浅く、そのため必要ときに支援できる体制になっていない。	○	左記のとおり重要な課題と位置づけ、学ぶ機会を積極的に取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	参加した職員が研修してきたことを会議等の場で活用し、法に関する理解浸透や遵守に繋げて虐待防止に取り組んでいる。	○	職員が何気なく発した言葉や態度が虐待と受け止められることが懸念されるので、全職員が更に研鑽し防止に取り組む。

事業所名: グループホーム青沼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所決定時に契約書を取り交わし、重要事項説明書により運営方針等具に説明し、利用者及び家族等の要望をお聞きし可能な限り対応することを理解して頂き同意を得ている。又退居に際しても利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、対応方針を相談し方向づけをしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が要望、意見、不満、苦情を直接若しくは介護相談員或いは運営推進会議で言える雰囲気により日頃心がけ、要望等には話し合い速やかに対応している。</p>	<p>要望や意見等は家族に相談することもあり、聞いた職員は自己の判断で対応せず、話し合いをもって対応している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族(親族含む)には来訪時の他、電話や定期的に行う「ホーム便り」で暮らしぶりを報告している。預かり金の使途に関しては、定期的に使途明細書に領収書を添付して報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族(親族や親しい友人等含む)には、来訪時に問いかけ気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された要望等は会議等で検討し対応している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月開催する全体会議において、運営全般に関して意見や提案を聞く機会を設け、質の向上を図っている。又会議以外でも個々にフロアリーダーに相談し、その対応策を講じて職員が働く意欲の向上や質の確保に取り組んでいる。</p>	○
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者が穏やかに自由な生活をできる限り支え満足のいくサービスの提供を念頭に勤務ローテーションを組んでいる。又、急病人や職員の急な休みのときも対応可能な体制を整えている。</p>	○
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、1階、2階の各ユニットの勤務を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。但し、職員は利用者全員を把握しておく必要があり、毎月1回～3回程度1階、2階を交代でローテーションを組んで対応している。</p>	<p>利用者、ご家族への信頼関係を築くためとサービスの質の低下防止のため、職員には処遇面を考慮しながら長期に勤務するよう心がけている。</p>

事業所名: グループホーム青沼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	職員の資質向上ため介護福祉士等の資格を取得できるように積極的に受験の機会を確保している。今後もそのように取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	同地域内のグループホームとの交流の機会を作り情報交換等に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	職員親睦会(特養職員合同)で今年は一泊旅行を3班に分けて実施し、グループ職員との交流が深められた。又、事業所単独で忘年会や新年会も復活させ実施して職員同士の親睦とストレス軽減に取り組みたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	ご本人の悩みや不安に対して徹底的に傾聴し受容と共感の姿勢で接するように努めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名: グループホーム青沼

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、ホームに空きがない場合、即入居はできないので可能な限り柔軟な対応をして場合によっては、空きが出るまで他のサービスを紹介する等して対応している。	○	ご本人とご家族にとって「何が一番問題なのか」を見極め、その問題解決のためのサービスを提案していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族がホームを見学してもらうことから始め、本人の状況により試行的に遊びに来てもらったりすることを繰り返しながらホームの環境に慣れて生活が安定することを見極め、利用につなげて入居にいたる場合もある。		今までの生活習慣(起床・食事・就寝等)を大事にしなが、ホームの生活に慣れるまで無理強いをすることなく、徐々に本人のペースで慣れるよう支援している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。又そういった場面が多くもてるようにセッティングや工夫や声かけに配慮している。		支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いに協働しながら穏やかにそして日々和やかに生活できるように場面作りや声かけをしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を密にして、利用者の様子や職員の思いを細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、利用者を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。		職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるためにご家族と同じような思いで支援していることを伝えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出時には外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に参加していただいたりしながら、より良い関係の継続に努めている。		本人の日頃の状態をこまめに報告・相談するとともに、来訪時は、ご本人とご家族の潤滑油になるように心がけている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないように心がけ、知人や友人等が訪問したりして継続的な交流に努めている。		昔から利用している美容院に時には行ったり、命日やお彼岸に墓参りをする利用者もおり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。

事業所名: グループホーム青沼

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。又毎日のお茶や食事の時間も職員と一緒に食べ利用者同士の関係が円滑にいくように配慮している。利用者同士の情報を連携し、すべての職員が共有できるようにしている。又心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方に対して、職員が訪ねたり家族等に様子を聞いたり、又本人と電話で話をしたりしてホームとの関係を断ち切らないようにできるだけ努めている。		他事業所若しくは長期療養を経て再入居して現在2名の方が生活している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望時自宅や病院を訪問したり、又は来訪していただき若しくは入居時にご本人や家族、関係者などから聴き取るようにしている。利用後も折に触れ、本人や家族にどんな生活をしていたかを聴いている。		ホームの環境や暮らしに慣れてきた時点で、本人自身の語りや、家族、知人等の訪問時など少しずつ把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		生活・心理面の視点や、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりのなかで、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行なっている。		利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聴き、ホーム外の関係者(訪問調査時、ケアマネ等)の意見も含めて課題となることをスタッフ全員と話し、介護計画の作成に活かしている。
	○現状に即した介護計画の見直し	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入		介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、

事業所名: グループホーム青沼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	職員が記録する利用者の状態変化や状況を今以上に家族に伝え、その要望に応じて取り組みたい。

事業所名: グループホーム青沼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個別にファイルを用意し、食事・水分量、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。又、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人、家族の状況に応じて、協力病院・医院以外の通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地域の自治会長や民生委員の計らいによりボランティアの呼びかけの他、訪問も受けている。	○ 地域生活を継続していくには、地元警察(交番)・消防署等の他、周辺施設への働きかけをして連携を取るよう取り組んでいく。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	毎月1回程度の割合で、理美容室から来訪していただき理髪を支援している。本人の希望により時には行きつけの美容院にも行っている。	○ 利用者の希望により週2回程度の割合で、鍼灸院から来訪しマッサージ治療を実施している。(治療は主治医の承諾を得て行なっている。)
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	運営推進会議に地域包括支援センター長若しくは職員が参加し、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。	○ 成年後見人制度を利用する方に対し、その支援をした経緯がある。(現在は退居)新たにその制度を利用している方が現在もいる。今後も必要と思われる利用者に地域包括支援センターと協力して利用できるように支援したい。
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入居相談時、事業所協力病院で診療可能な病気について本人または家族の同意を得て紹介状により移しホーム対応で通院支援をしている。	事業所の協力医の他、利用前からかかりつけ医での医療を受けられるよう、又新たな病気についてもご家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。

事業所名: グループホーム青沼

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に神経内科医の診察日があり、利用者は認知症状によりその医師の診察により適切な指示や助言を受けて対応している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職員等は協力病院等とある程度相談できる関係にあり、状況に応じて相談しながら利用者の日頃の健康管理体制を築いている。	○	以前看護師はいたが退職され、懸案事項の一つである。今後も配置に向けて取り組みたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。又、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心身の機能が重度化しホームでの生活が困難となった場合、できるだけ早い段階から本人や家族と話し合い、現段階では特別養護老人ホームへ移っている。	○	待機者が多い中で特養等への移行が困難になっている実情を踏まえて今後は重度化に対応するための方策を考える時期にきていることは否めない。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	前項に同じ
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの持続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		

事業所名: グループホーム青沼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や打ち合わせ等折に触れ、職員の意識向上を図るとともに、日々のかかわり方をフロアリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	採用時、全職員から「個人情報保護に関する誓約書」を取り秘密保持を徹底している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりカードなどを使用し、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。(飲みたい物、食べたいメニュー、する、しない等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行なっている。	買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えや入浴後の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて、鏡を見ながら本人の気持ちにそった支援を心がけている。	個々の生活習慣に合わせ支援をし、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。来訪して下さる理容の方には希望にあわせたカットをしてもらえるよう連携を取っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際は利用者の希望もある程度聞いて作っている。調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。年数回ファミレスで外食もしている。	ピーマン、トマト、ナス等利用者と一緒に畑で採り、それを食材に使って一緒に調理をし、食事を1日の大切な活動のひとつにしている。又、月1回程度の割合で「選択メニュー」と称し、スーパーに出かけ自分の好みの弁当等を買って昼食に取り入れている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子や時間を見ながらコーヒー、紅茶等を楽しめるように支援している。又、お酒の好きな方には銘柄を聞き購入して、入浴後に楽しめるよう支援している。	たばこについては、職員が預かり、本人の希望にそって他の利用者に迷惑にならないよう場所を決めて吸えるよう配慮している。

事業所名: グループホーム青沼

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのサインを全職員が把握し、あからさまな誘導でなく、さり気なく支援している。又、失敗してしまった場合でも、極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気づかれない等の配慮をしながら対応している。		時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、午後の入浴で男女別の順番で実施しており問題なく経過している。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	○	入浴したい日、希望する時間に入浴していただくのが当初からの課題であるが、職員の人員配置や浴室(浴槽)等から考えて実現には至っていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		夕食前後からは穏やかで安心した時間の過ごし方にチームで取り組み、就寝に向けてリズムが安定するよう工夫している。寝つけないときには、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをする等配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。 外出や地域の行事参加、催し物の見学等楽しみごとを利用者と相談しながら行なっている。		食事作りや花壇の手入れ、草取り、衣服の補修、毛糸編み等広い分野で利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		○	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。 外出時やファミリーマート等で買い物した場合、預かっているお金を事前に手渡し自分で払っていただけるように取り組んでいく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいは近隣の公園(動物園)にお弁当を持って出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う遠く場所への外出については、予め計画を立て、職員の勤務を調整しながら実施している。(初詣、花見、イチゴ狩り等)		

事業所名: グループホーム青沼

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、職員からの声かけを行なうとともに、会話が他の利用者に聞こえないよう電話の設置場所を工夫している。		毎年、年賀状(暑中見舞い)を出すための支援を欠かさずに行ない、利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由で特別な制限もなく何方でも気軽に来やすい雰囲気になっている。		全室個室のため他の利用者にも気兼ねなく過ごしてもらえる。然し利用者が訪問者と上手く対話ができない場合等は、さりげなく職員が中に入り間を取り持つように配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないことを基本と認識し、介護に当たっている。身体拘束排除に関するマニュアルも整備しており、常時習得可能な体制になっている。	○	身体拘束は、開設以来していない。今後もしないように取り組んでいく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		職員の見守りの方法を徹底し、又、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守っている。夜間は、数十分単位で利用者の様子を確認するとともに、起きられたときに直ぐに対応できるよう居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		利用者の状況に照らしながら、嚴重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使う時に注意が必要なもの等に分けて管理している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。例えば転倒のリスクの高い利用者の居室の床面を衝撃をやわらげるため敷物したり、タバコを吸う方への気配りや防災素材の活用等に配慮している。		日常「ヒヤッ」とした事態が出た場合、ヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、関係機関に報告している。そして事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告をしている。

事業所名: グループホーム青沼

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や転倒事故等発生時、ある程度の応急的処置は全職員ができる体制にあるが、定期的な訓練は行っていない。	○	事故発生時の対応に関するマニュアルは整備してある。今後の取り組みとして、火災等発生時近隣の協力者への呼びかけや消火・避難訓練・救命処置等習得のため、消防署の協力を得て実際の場面で活かせる技術を身につけたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行なっている。その際、避難経路の確認、地域広域避難場所の確認、消火器の使い方について防火管理者の資格を持つ職員が訓練している。	○	前項に同じ
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や日々の自由な暮らしにより、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない生活が利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害をご家族に見てもらったり、具体的に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行ない、変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。		体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化等気づいたことがあれば、直ぐにリーダー若しくは管理者に報告するとともに職員間で共有し、対応にあたっている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の他、処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、ケースによっては口に入れて差し上げ、きちんと服用できているかの確認をしている。		薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとるようにし、協力医療機関及びかかりつけ医院との連携を図るようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤や時に浣腸等を必要とする利用者には、主治医の指示により個々の状態にあわせた使用量、頻度で対応している。		便秘予防として繊維質の多い食材や乳製品(毎日のヤクルト等)を採り入れている。散歩(ホーム内も)、食事のお手伝い、適度な運動等身体を動かすことを日課とし、自然排便できるよう取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行ない、口の中を他人に触れられる利用者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助を行なっている。就寝前には義歯を外し洗浄液に浸している。		

事業所名: グループホーム青沼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー1600を基準にして献立をたてて実施している。糖尿の基準値の高い方や肥満等の方には、その人に合う栄養バランスを考慮しながら対応している。	一人ひとりの食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。 ※職員に栄養士資格者が2人いる。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、マニュアルを作成し、全職員で共有し、予防・対策に努めている。	感染症に関して情報収集し、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。又、利用者及び家族に同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用する等、予防も徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、毎晩漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫の点検・掃除し、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。	調理器具、台所水周りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。新鮮で安全な食材を使用するため、野菜類は毎日近所の八百屋さんから、他の食材は近所のスーパー等買い物に出かけて、なるべく買いだめをしないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるように、花を生けたり玄関先にプランターを置いたりして、季節感を演出している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、ゆず湯や菖蒲湯、鍋料理や桜餅、お赤飯など、五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。	フロアの飾りつけは利用者と一緒に考えて、利用者が自分が住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール及び各階ホール畳の場所に椅子とテーブル又、共用空間にソファを置き、写真や絵画、花などで装飾し利用者同士や家族等とも気軽に話ができる居心地の良い空間をつくっている。	

事業所名: グループホーム青沼

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベット、タンスの他、利用者一人ひとりが使い慣れた椅子やテーブル、収納セット、テレビの持ち込み等自由にしており落ち着いて生活ができるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	厨房・フロアは食事の後や一定の時間帯に換気をしており、冷暖房は外気と利用者の発汗の様子や冷えなどに注意して調節するようになっている。 トイレは外気と換気扇で悪臭が出ないよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクや調理台、洗面所など利用者の使い易い高さで設置しており、生活環境のあらゆるところに、自立した生活ができるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何が分りにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。状況が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、又ベンチを置いて、利用者が涼んだり日向ぼっこができるような工夫をしている。		

事業所名: グループホーム青沼

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームは限られた空間の中で生活しており、人間関係がこじれると逃げ場がなくなるといった面があります。当ホームは開設当初から音楽関係に力を入れております。カラオケセット、CD、カセットテープ、ビデオ、キーボード、手作りの歌本等用意しており、いつでも口ずさめる体勢を取っています。各種ボランティアの訪問でも音楽に関する演奏会も数多く開催しました。お年寄りの場合、短期記憶(直近の)は心に留めておくことは難しいが、長期記憶(昔の)は比較的良く保たれております。童謡、ナツメロ等口ずさむことによって、昔の記憶が現在にタイムスリップしてコミュニケーションの潤滑油の役目を果たしてくれます。そのような観点からこれからも事業所の目玉として大いに力を入れ推進したいと思っています。